

---

# 美姫に誓いの口づけを

紫月 紅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

美姫に誓いの口づけを

### 【Nコード】

N5109BA

### 【作者名】

紫月 紅

### 【あらすじ】

容姿は月のように冷ややかに美しく、声は聞く者を惑わすように妖艶……………

しかし、彼の時は止まっている。  
愛する者の死で。

…………… 彼は知らない。

この先に出会う奇跡に。

そして、歩みを止めた時を再び共に刻む少女のことを ……

悲しみの吸血鬼と容姿は良いが生意気な少女の不器用な愛物語

## prologue

……もう何年経ったことだろう。

……嫌、何百年か。

私を恐れ、憐れみ、それでも慈しみ、理解し、愛してくれた彼女を失って。

今もこの手に残る

彼女の最期の温もりが

瞳に焼き付く美しい姿が

耳に残る儂い声が

絶えることなく続く時間の中で、私に絶望を与える。

……彼女は私にとって最愛だった。

彼女がいれば幸せだった。

彼女を誰より愛していた。

それなのに……彼女は最期に私に言った。

……時が来たら、あなたは誰かを愛するでしょう……

……それは、この先解かれることのない呪文のようだった。

……それでもいいから……それまでは私を……忘れないで……

## アスピア

ここは大国アスピア。

大きな城下町は活気があり、人々は陽気そのもの。

沢山の物資が溢れ、貧富の差など無いに等しい。

それもこれも、この国を治める王の手腕の賜物と言えよう。最も、この平穩そのものの国にも悪さを働こうとする不届き者はいるが。

少女、アリアもそのアスピアで暮らしている。

漆黒の艶やかな長い髪は結われることもなくサラサラと風に揺れ、それに相反する肌の白さは雪のよう。

大きな二つの瞳は穢れを知らず、ハチミツのような琥珀色、その間を整った鼻筋が通る。

唇はほんのり色付き上品で、頬はバラのように淡いピンク。

背はやや小さめで体は折れてしまいそうな程華奢。

まさにドール。

一度歩けば、皆が振り帰り笑みを零す。

……はずだった。

「こらっ！待ちなさいよっ！大人しく観念なさいっ！」

ドールと見間違っ程の容姿にそぐわない言動に周囲は慣れていた。

「…観念なさい、この悪党。」

自分よりも背の高い男を後ろから飛び着くように蹴り飛ばし、足下に敷く。

「わっわかった！俺が悪かった！出来心なんだっ…許してくれえっ。」

顔を引きつらせ男は少女に助けを請う。

「あなたの言葉は信用ならない！」

男を見下ろして少女は睨む。

「だいたいあんた…」

「アリア、もうよしなさい。」

鶴の一声。

敷かれる男と見下ろす少女が、たちまち 悪びれた様子で急ぎ並ぶ。

周囲はクスクスと笑いながら、ある者はまたかと言い、ある者は今日は早い終わりだなと言ってまた歩み続ける。

周囲の動きに残された二人は互いに罰悪そうに声の主を見やる。

アスピアが他国に誇る軍部で最強にして最高の司令官と称される男。

ルダウス・ド・シュトレウス

……少女、アリアの父であった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5109ba/>

---

美姫に誓いの口づけを

2012年1月14日02時47分発行